

「平和教育に対する私の今の問い」 (7/7) について 回答を考える

7/28 シリーズ平和教育学 補講

- 4-1 私の問い：対立を平和的に解決する方法を知り、身近な事例から実践していく場をどのように広げていけるのか。（主に子どもと子どもに関わるおとな）
- 4-2 カリキュラムや地方公務員法といった法的拘束力の制約を受ける学校教育による平和教育には限界があると考えられる場合、学校以外の行為者（エージェント）による平和教育（例：市民社会による平和教育）の可能性や潜在性は日本社会の文脈において見出し得るかどうか。
- 4-3 平和教育学の中には、非暴力教育の理論や実践は含まれないのですか。また脳生理学や動物行動学の研究方法や知見などは参考にしないのでしょうか。
- 4-4 平和教育学のカリキュラムは、どのように作成したら良いか。
- 4-5 私は、日本が未来永劫、他の国へ直接的暴力をしない&他国から直接的暴力を受けない国になるために、何ができるのか？何が効くのか？ということを知りたいです。作っていきたくたいです。
- 4-6 今の問いです。世界的に平和教育にはどんなものがあるのか？日本において「太平洋戦争の記憶」や「語り部」という存在が薄くなっても平和教育は可能なのでしょうか？
- 4-7 自分事として、平和について考え、行動する力を培うためにできることは。
- 4-8 最新の問題（ウクライナ戦争など）を授業で取り扱おうと思ったときに気をつけるべきことは何か。
- 4-9 平和教育についての教育が専門ではないため、平和教育の課題がどういったものなのかが分からないのが私の今の問いです。
- 4-10 平和教育の構造は何か、どうつくられていくべきかという問いをもっています。
- 4-11 [当日配布資料の] 最後の「これからの平和教育が目指す方向性」を知りたいです。
- 4-12 沖縄では今、継承という言葉がよく聞きます。子どもたちがこれから語りついていきたいといひます。大事なことだと思ひます。一方、継承で平和が作れるのか。軍事要塞化の沖縄での問いです。
- 4-13 平和教育関係の諸学会どうしの、垣根を超えた、研究・実践を進める方法について、苦悩しておひります。
- 4-14 教育現場でどのように扱ったらいいか。

4-1 私の問い：対立を平和的に解決する方法を知り、身近な事例から実践していく場をどのように広げていけるのか。（主に子どもと子どもに関わるおとな）

表1 発達段階別に見た平和教育における学習目標（例示）

発達段階	全体目標	戦争についての学習目標	平和形成方法についての学習目標
小学校1・2・3年 《小学前期》	戦争体験の実相に触れ、平和や生命の大切さに気付く	児童が絵本や副読本などの教材を通して、国内外の戦災の様子や人々の気持ちを理解できる	自分や家族、友だち、動植物など生命あるすべてを大切なものとして尊重し大事にする心情を育てる。命や家族の大切さ、戦争の恐さを理解できる。
小学校4・5・6年 《小学後期》	戦争の実相を理解し、地域社会や日本の平和形成について考える	児童が地域にある戦争体験を聴いたり、副読本を活用したり、地域や国内外の戦争の実相を多面的に理解する。地域や日本の戦争の歴史について調べて発表するなどの学習を通して、戦争の実相について理解できる	平和形成の方法を自分なりに考え、平和社会の形成に貢献した人々や団体に対する尊敬や感謝の念を深めることができる
中学校1・2・3年	国内外の戦争について批判的に理解し、平和の形成方法について提案できる	中学校生徒が、国内外の戦争の実相や国際社会の平和問題について、平和で民主的な社会を形成するという観点から、教科書や副読本などを活用して、より良い平和な社会や国際関係について主体的に構想できる	解決すべき平和の課題を探究し、自分の考えをまとめるなどの学習を通して、世界平和に関わる問題について考察し発信できる
高等学校1・2・3年	国内外の戦争について多角的に理解し、平和で民主的な社会の形成方法について展望を持って提案できる	高校生徒が、社会背景や政治情勢等を踏まえ、国内外の戦争の歴史や、国際社会の平和課題の解決に向けて、多面的・多角的に理解し、主体的に発信できる	望ましい紛争解決のあり方についての考察を深めるなどの学習を通して、主体的に平和の尊さや人間の尊厳についての認識を深め、より平和な社会の実現について展望し発信できる

注1：緑色の記入は平和形成に関わる学習目標を、黒色の記入は戦争・紛争・暴力に関わる学習目標を示している。

4-2 カリキュラムや地方公務員法といった法的拘束力の制約を受ける学校教育による平和教育には限界があると考えられる場合、学校以外の行為者（エージェント）による平和教育（例：市民社会による平和教育）の可能性や潜在性は日本社会の文脈において見出し得るかどうか。

- 限界がある理由：学校教育は学習指導要領の法的拘束力を受ける。公立学校教員は地方公務員法の制約を受ける。
- 平和教育実践には、1950年代以降、自主自律的な教育実践運動に支えられ、多様な内容と豊富な積み重ねがある。内容的に日本国憲法に沿って反戦平和主義的な傾向がある。
- 平和教育は、1950年代より平和教育実践運動として発展してきた。1990年代以降、多様な発展をしている。参加型平和学習、国際交流、人権教育、国際教育、ユネスコスクール、等々。

- 学校以外の行為者による平和教育
- 「社会教育における平和教育」（『平和教育学事典』）

4-3 平和教育学の中には、非暴力教育の理論や実践は含まれないのですか。また脳生理学や動物行動学の研究方法や知見などは参考にしないのでしょうか。

- 平和教育学の研究課題として、「…例えば、緊張や紛争が継続している地域社会や国際関係を、非暴力的な方法を用いて、より平和で公正な社会関係や国際関係に作りかえる方法についての教育も研究対象となる。」（竹内 2017）
- 「暴力に関するセビリア声明」 Spain, 1986
 - 「戦争は人間性に内在するものであるからなくすことはできない」という人間性に関する生物学的悲観主義を明確に否定し、平和創造の展望を与えるためにまとめられた科学者たちのメッセージである。戦争が生物学的必然でない以上、平和は可能であると明言した科学者たちの「声明」である。

4-4 平和教育学のカリキュラムは、どのように作成したら良いか。

表2 広島市と長崎市における平和教育の学習目標

平和教育プログラム（広島市委員会 2013）		平和教育手引書（長崎市教育委員会 2018）	
小学校1,2,3学年	被爆の実相に触れ生命の尊さや人間愛に気づく	小学校1,2学年	平和の大切さに気づき平和への想いを伝える
		小学校3,4	平和の心を育み、平和への想いを伝える
小学校4,5,6学年	被爆の実相や復興の過程を理解する	小学校5,6学年	平和への心を深め、平和への想いを伝える
中学校1,2,3学年	世界平和にかかわる問題を考察する	中学校1,2学年	平和について過去と現在を見つめ、行動する
		中学校3学年	平和について未来を考え、行動する
高等学校1,2,3学年	平和で持続可能な社会の実現について展望する		

4-5 私は、日本が未来永劫、他の国へ直接的暴力をしない & 他国から直接的暴力を受けない国になるために、何ができるのか？何が効くのか？ということ、本気で知りたいです。作っていききたいです。

- 「他の国へ直接的暴力をしない」 = 平和主義
 - [NHK動画 「小学校の番組 社会にドッキリ 平和主義」](#)
- 直接的暴力を受けない国になる」
 - ①多様な「抑止力」を高める。
 - [NHK動画 「小学校の番組 社会にドッキリ 世界の国々と日本の国際協力」](#)
 - ②日米安保条約を保持する。（NATOに加盟する）



4-6 今の問いです。世界的に平和教育にはどんなものがあるのか？日本において「太平洋戦争の記憶」や「語り部」という存在が薄くなっても平和教育は可能なのでしょうか？

表3 国別にみた平和教育への要因の比較

国	歴史的要因	政治的要因	教育的要因	人種・民族・宗教的要因
日本	第二次大戦の敗戦国	反戦平和志向が強い	集団重視の教育方法	外国人が少ない
イギリス・アメリカ	第二次大戦の戦勝国	正義の戦争論が強い	個人重視の教育方法	多民族国家
ドイツ	第二次大戦の敗戦国	反省志向	歴史教育の重視	移民が多い
イスラエル	離散→シオニズム	テロ対策・宗教色が強い	ヘブライ語・創造性の重視	ユダヤ人とアラブ人
非平和的国家	紛争・対立の歴史、和解がまだ	独裁的・軍事的政治、言論の統制	教育条件整備の遅れ	人種・民族・宗教的対立

4-6b 今の問いです。世界的に平和教育にはどんなものがあるのか？日本において「太平洋戦争の記憶」や「語り部」という存在が薄くなっても平和教育は可能なのでしょうか？

表4 戦争体験を継承する平和教育の類型

分類要因 \ 類型	第2世代型	第3世代型	第4世代型
実践の時期	1960・70・80年代	80・90・2000年代	2000・10・20年代
戦争体験の聞き手 (聞き手の生年)	第2世代 (1945年～1975年頃)	第3世代 (1976年～2005年頃)	第4世代 (2006年～2035年頃)
戦争体験の語り手	戦争体験者	祖父母	曾祖父母
	語り手	戦争体験者	証言者・語り部
	利用メディア	新聞・雑誌 [読む]	テレビ・ビデオ [視聴]
戦争体験が・を	風化	継承	伝承・語り継ぐ
戦争体験の内容	戦争被害中心	戦争加害も付加	平和創造も付加
継承の方法	体感型	講話型 語り手から一方向	+対話・課題解決 話し手聞き手の双方向
継承目標	言い伝え	継承+発信	+平和の創造

4-7 自分事として、平和について考え、行動する力を培うためにできることは。

表5 戦争体験継承への当事者性の形成過程モデル

- ①情操的土台づくり：戦争被害への共感的な理解を深める情動的素養を培う。戦争被害体験に興味・関心を持つことができる安定的な情操的な基盤づくりをする。
- ②心理的距離の縮小：戦争体験と〈人、場所、モノ、時間など〉でつながる方法で学習する。過去の戦争体験〔体験的事実と平和への想い〕と出会う際に、戦争被害者との心理的距離を縮める。
- ③想いの共有：戦争体験を知識（歴史的事実・科学的事実）として深く知るだけでなく、平和形成への想い（願い）も共有する。
- ④連帯的共感：戦争被害者の個別的な体験的事実に寄り添い（共感的理解を示し）、平和を願う想いに対して、平和形成を目指す仲間としての連帯感を持つ。
- ⑤意義の理解：戦争体験の継承活動（語り継ぐ活動）の実際に触れ、継承活動の意義を認める〔語り継ぐ意義〕。
- ⑥継承の当事者：戦争体験の継承活動（語り継ぐ活動）を他人事ではなく自分事として捉え〔語り継ぐ意志〕、当事者意識を持って継承活動に参加する。
- ⑦継承の主導者：戦争体験継承の活動経験者に数多く出会い、それを平和形成モデルと捉え、継承（伝承）活動の輪を広げようとする。

4-8 最新の問題（**ウクライナ戦争**など）を授業で取り扱おうと思ったときに気をつけるべきことは何か。

- ウクライナ戦争の取り扱い方
- 子どものトラウマに寄り添う
- 「ウクライナ戦争など現在の紛争を教えることについては？」

[高見祥一氏のHP](#)



○国内のサイト

- 学研キッズネット
 - なぜ？ どうして？ ロシアのウクライナ侵攻
- NHK for School
 - ウクライナ 子どもたちや先生にお勧めしたいコンテンツ
- NHK国際ニュースナビ
 - ウクライナの解説・ニュース・特集
- 朝日新聞デジタル記事
 - ウクライナの子どもたち、被爆地ツアーに参加「今の広島は…」

○海外のサイト

- 教育科学組合（ドイツ）
 - 学校でウクライナ戦争について話し合う
- 教育省（イギリス）
 - 教師や家族がロシアのウクライナ侵攻について生徒たちに話し、誤った情報を避ける方法を支援します。
- 国民教育青少年省（フランス）
 - ウクライナ危機について生徒たちと話し合う

4-9 平和教育についての教育が専門ではないため、平和教育の課題がどういったものなのかが分からないのが私の今の問です。

○平和教育の課題は、例えば：

- 平和教育実践運動が低迷期にあること。
- 戦争体験継承の直接的継承から間接的継承への過渡期にあること。
- 低迷期・過渡期を乗り越えるためには、平和な社会の形成（社会形成、平和構築、未来創造など）に対して、自分事として関わろうとする当事者意識を育成すること。

○研究課題の項目

- (1)子どもの発達段階に対応したカリキュラム開発
- (2)戦争記憶の再活性化
- (3)戦争の悲惨さを子どもに伝える方法
- (4)平和形成主体の育成
- (5)実証的検証による研究

4-10 平和教育の構造は何か、どうつくられていくべきかという問いをもっています。

- 平和教育の構造 平和教育の分類（次のスライド）
 - 学びの構造
 - 平和教育における理論と実践の往還方法は
-
- 平和教育での往還方法：理論と実践の間に相互的な関係を築きながら、研究を深める。
 - ①「理論の実践化」：学問的に産出された知識（大理論：命題）を実践に適用する方法である。心理学や教育学などの理論を平和教育の実践（授業など）に活かす。
 - ②「平和教育実践の典型化」：実践・研究から得られる知識（小理論：作業仮説）を一般化や体系化する方法である。例えば、平和教育研究の知見や、平和教育実践の経験やノウハウを、共有したり分析したりする。
 - ③「平和教育実践の中の理論」：自己の実践（実践の中での選択や思考や判断）を省察して新たな知識（知見）を見出す。既存の知識（小理論）を検証したりする。平和教育実践で経験したことや課題について、振り返り、他者と対話する。
 - 理論と実践の往還はサイクル的に繰り返される。
 - 自身の内部に形成されている「平和教育についての個人的なニーズや関心や価値観」などと照らし合わせる。

4-10b 平和教育の分類

- 直接的平和教育は、戦争や暴力などの平和に関する問題を学習することで、平和への理解や意識を高める教育である。従来の平和教育といえ、例えば、原爆や戦争の被害者の体験談を聞いたり、紛争地域の現状を知ったり、さらに非暴力的な紛争解決の方法を学んだりすることが含まれる。（education about peaceに近い）
 - 間接的平和教育は、人権や民主主義などの平和に必要な価値観や態度を育む教育である。自分と異なる者との共存が含まれ、例えば、人種や性別や障害などの違いを尊重したり、他者と協働したりする活動が含まれる。（education for peaceに近い）
- 教育の方法自体が平和的でなくてはならないと考えられる。（education in peaceに近い）
 - 教育の場面が平和的な関係でなくてはならないと考えられる。教育の場面とは、教室、学校、教育委員会との関係、教育行政のあり方など。（peace in education）
 - 子どもの学習権が保障されるためには、社会自体や国際関係が平和でなくては、通学そのものが不可能となる。不可能とする要因は、社会の治安の悪化、地域紛争、パンデミック、戦争など。（education as positive peace）

4-11 [7/7配布資料の] 最後の「これからの平和教育が 目指す方向性」を知りたいです。

○1回目の講座資料を再掲載します

従来型（伝統的）平和教育→ 次世代型の平和教育（参考：外池 2018）

①平和教育の目的として、「批判的に認識する力」の育成を

ドイツの政治教育における、民主的社会的構成員になるための政治的教養の「育成で目指す能力・技量に近い。

②方法の重視：「目的重視の平和教育」→「方法重視の平和教育」

- 子どもが主体的に参加できる学習方法を：教師中心の平和教育→子ども中心の平和教育

③内容面で、平和教育のマンネリや形骸化を防ぐ

- 子どもの発達段階に応じた平和教育のカリキュラム化を
- 現代社会で子どもが対峙する平和課題の解決を考察できる力を
- 平和形成に当事者性を持つ主体の育成を

4-12沖縄では今、継承という言葉がよく聞きます。子どもたちがこれから語りついでいきたいといひます。大事なことだと思ひます。一方、継承で平和が作れるのか。軍事要塞化の沖縄での問ひです。

- 戦争体験の継承により作られる「平和」は、集合的記憶としての沖縄戦の記憶と、沖縄戦の悲惨な体験の継承により、反戦平和意識（戦争は2度としたくないという戦争忌避意識と平和主義の態度など）が形成される。
 - 国際的な友好・親善による「平和」構築に関心が高まり、そうした活動に積極的に関わろうとする態度が形成される。
-
- 戦争を防ぐためには対話を継続し、外交努力とその蓄積が必要である。
 - 周りに覇権国家がある場合は、多様な「抑止力」を持つ必要がある。
 - 政治的な批判的思考力を高めるドイツの政治教育が参考になる。

4-13平和教育関係の諸学会どうしの、垣根を超えた、研究・実践を進める方法について、苦悩しております。

- 平和教育関係学会等には
 - 教育学会、平和学会、国際理解教育学会、社会科教育学会
 - グローバル教育研究会、全国民主主義教育研究会、平和教育学研究会
 - 日本教職員組合、全日本教職員組合、
 - 開発教育協会（DEAR）
 - 環境教育研究会
- 平和教育研究
- 平和教育実践
- 広義の平和教育と狭義の平和教育

4-14教育現場でどのように扱ったらいいか。

- HP「平和教育の授業づくり（2023年版）：戦争を知らない教師が平和教育をどう行えばよいか」
 - <http://peace-education.info/murakami/2016PE/pracContents.html>

1. 平和教育がなぜ必要ですか
2. 発達段階に応じた平和教育とは
 - (1) 発達段階に応じたカリキュラム
 - (2) 観点別に見た発達段階別の学習目標
 - (3) 平和教育における子どもの評価
3. 平和教育の授業づくりの方法
 - (1) 授業づくりに必要なもの
 - (2) 授業を実施するプロセス
4. 平和教育の実践例
5. 平和教育実践についてのQ&A
6. 平和ミュージアムを活用した平和学習の方法



参考文献

- 竹内 久顕 2017、「平和教育学の研究課題」、『平和教育学事典』。
- 谷岡 重則 2017、「社会教育における平和教育」、『平和教育学事典』。
- 長崎市教育委員会 2018、「『平和教育手引書』」。
- 広島市教育委員会 2013、「広島市立学校平和教育プログラム指導資料」。
- 村上登司文 2023、「2000年代以降の平和教育研究の動向と成果」、『広島平和科学』44。
- 村上登司文 2021、「イスラエルの平和意識の考察：中学生に対する意識調査から」、『広島平和科学』42。
- 村上登司文 2018、「戦争体験を第4世代（次世代）に語り継ぐ平和教育の考察」『広島平和科学』40。
- 村上登司文 2017、「戦争体験継承が平和意識の形成に及ぼす影響－中学生に対する平和意識調査の時系列的分析－」『広島平和科学』38。
- 村上登司文 2013、「ドイツの平和教育の考察－ギムナジウムでの調査を中心に－」『広島平和科学』35。
- 村上登司文 2011、「地方自治体の平和事業と学校教育との協同」、『広島平和科学』33。
- 村上登司文 2007、「平和形成方法の教育についての考察（その2）－日英中学生の平和意識調査の比較から」、『広島平和科学』29。
- 村上登司文 2006、「平和形成方法の教育についての考察－中学生の平和意識調査を手がかりに」、『広島平和科学』28。
- 村上登司文・高見祥一 2022「平和教育の授業づくり」のHP